

近畿農政局長賞

箱庭の里 奥嶋の集い（滋賀県近江八幡市）



奥嶋地区の風景



魚道での生き物観察会

（概 要）

（１）むらづくりの動機・背景

みどり豊かで貴重な自然環境と延光院の多宝塔など古代の文化資産や独自の伝承文化を数多く受け継いできたこの地域も、少子高齢化による地域活力の低下や後継者不足による遊休農地の増加と荒廃、さらに獣害（主にイノシシ）による農作物被害などで先行きを不安視する声が多く出されるようになってきた。

このような状況の中、平成19年度に農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る取り組みを支援する農地・水環境保全対策が創設されたことを契機に、当町でも農地を健全な状態で保ち、身近な農道や用排水路ならびに周辺地域で共有している資産（琵琶湖や長命寺川など）の保全活動を農業従事者だけでなく、住民全体で取り組み、次世代に繋げていくため、「箱庭の里奥嶋の集い」を立ち上げた。

また、町の基本ビジョンとして「島町まちづくりプラン」を策定し、農家・非農家・女性もメンバーに加わり、県立大学や立命館大学との連携などを行うなど、ハード面の取り組みだけでなく、伝統文化の継承などソフト面も併せた取り組みを行うことで、今まで関心が薄かった若者層も地域の事業に参加するようになってきている。

（２）むらづくりの内容

「箱庭の里奥嶋の集い」は「終の棲家は自分たちで」を基本コンセプトとして、「多面的機能支払交付金」の活動団体として農地、水路、農道などの生産基盤の補修、更新や生き物調査などの農村環境保全活動にとどまらず、多様な主体と連携し「むらづくり」を楽しみながら進めている。

また、当組織は地域で生産する魚のゆりかご水田米や大豆（ミズクグリ）など農産物に付加価値を付けて販売を企画・実践し、また50年間途絶えていた伝統文化の「ほんがら松明」の復活などにより、地域の魅力を発信し、地域の「誇り」を次世代に繋げる活動を展開している。